

淀川水系流域委員会 第1回住民参加部会検討会（2003.7.4開催）結果概要

03.7.29 庶務作成

開催日時：2003年7月4日（金） 17:00～18:45

場 所：ぱ・る・るプラザ京都 7階 スタジオ2

参加者数：委員10名 他部会委員1名

1 決定事項

- ・住民参加部会としての意見とりまとめのリーダーを山村委員、サブリーダーを荻野委員とし、下記の3班に分かれて論点、意見を整理する。

理念班： 田村委員、 嘉田委員、畑委員、山村委員、米山委員

実践班： 塚本委員、 田中委員、荻野委員、寺田委員、藤井委員、三田村委員

展開班： 川上委員、 村上委員、有馬委員、小竹委員、本多委員、松本委員、（山本委員）

注1) は班長、 は副班長

注2) 欠席した委員（下線の委員）は、出席委員で相談の上担当を決定した。

注3) カッコ内は7/4の検討会に他部会から参加していた委員。

- ・次回住民参加部会検討会（委員のみで開催）は8/18～20の間で日程調整を行う。
- ・次回住民参加部会は8月28日（木）15:00～18:00に開催し、班毎の検討をもとに部会としての意見の最終的なとりまとめを行う。

2 検討内容

委員会、他部会の状況報告

庶務より、資料1「委員会および各部会の状況（提言とりまとめ以降）」をもとに、委員会及び他部会の活動状況等について報告が行われた。

説明資料（第2稿）の検討について

）今後の検討課題および審議の進め方について

意見とりまとめに向けての審議の進め方について意見交換が行われた。第1稿について当部会および他部会も含めて意見が数多く出されており、今後は検討の角度を変え絞り込んで検討を行う旨の部会長の提案をもとに、「1 決定事項」の通り班毎に検討を行うこととなった。主な意見交換については、「3 主な意見」を参照。

）今後の予定について

各班は、班長、副班長を中心に8/8を目途に論点や意見を整理し、意見がまとまった段階で部会委員全員から意見を伺う。各班でのとりまとめおよび次回検討会（8/18～20開催）、次回部会（8/28開催）での議論をふまえ、部会長、部会長代理、リーダー、サブリーダー、班長、副班長が、部会としてのとりまとめの修正を行い、第24回委員会（9/5開催）に提出する。

3 主な意見

説明資料(第2稿)の検討について

班分けの仕方について

- ・まずどのような切り口で分担をするか考えたい。3月の意見募集時には説明資料(第1稿)の項目に沿って分担したが、それでは項目毎に全く違った意見が出てくる心配がある。住民参加は全体に関わるので、別の切り口で分担した方がいいのではないか。(部会長)

これまで項目に沿って分けてきており、自分の担当してきた部分はある程度精読しているので、従来通りでよいのではないか。

治水、利水等の分野毎に参加のあり方に相違があるのではないか。幅は広がるが、全体を見据えることが必要である。

例えば河川レンジャーに関しても、環境、治水、利水、利用等の全般と関わるので、全体を見渡して精査し意見を言いたい。

項目毎の論点はこれまでの議論で既にかなり出ている。必要なのは、その議論を深めることである。これまでに出てきた議論に優先順位をつけて、重要項目から全員で検討していくのはどうか。

地域別に分ける、というやり方もある。

- ・生物の指標による水質モニタリングの話は環境・利用部会の方が議論しやすい。他部会に投げた方がよいテーマもある。項目によっては他部会に検討をお願いするのはどうか。

現在、所属部会以外の議論にも自由に参加できるようになっているので、他部会に参加して意見を言っていたのが一番良いのではないか。また、意見をとりまとめる過程で他部会との重複があっても良いのではないか。

初めから他部会に委ねるのはよくない。まずは、この部会で議論し、その過程で必要が生じた場合に、他部会に投げるべき。

各班の検討内容について

- ・理念、実践、展開の3班に分かれ、理念班は全般的な住民参加についての考え方の部分を主体に、実践班は実践の内容はこれでいいのかということ、展開班は今後どうしていくべきかについて第2稿を精読し議論する。それ以上の検討内容は、本日配布したたたき台を参照のうえ、各班で自由に考えればよい。(部会長)

- ・所属していない班に対しても意見を言ってもよいのか。

経過を全委員に伝えるので、それに対して意見を言えばよい。

- ・複数の班が同じテーマを取り扱う場合もありえる。

同じテーマを扱っても構わない。それぞれの視点で、議論すればよい。

- ・班会議に河川管理者を呼ぶことは可能か。

委員で議論すべきことはあるが、河川管理者に聞くことはないのではないか。

非公開の場で、河川管理者と議論するのはよくないのではないか。人々に不信感を与えかねない。

各班では河川管理者を呼ばず、公開の部会の場で質問すればよい。

その他

- ・河川レンジャーの活動はどのようなもので、「拠点」とは何か、第2稿では見えてこない。また、モニタリング、フィードバックという言葉も随所に見られるが、これらの内容について、この住民参加部会で整理し具体的に提示する必要がある。
- ・河川レンジャーのもともとの発想は、水防団が高齢化、サラリーマン化し弱体化しているところを考え直そうというところから出てきたが、第2稿では環境教育や体験学習等だけになりそもそもの発端が抜け落ちている。

水防をどう捉えるかは河川行政の本質に関わるので、触れられたくないという思いが河川管理者側にあるのかもしれない。

水防協議会や水防団の利害に関わるので、できることがあまりないのではないか。現状把握が必要である。

そのことについても、部会で河川管理者に聞いてはどうか。(部会長)

以上

説明および発言内容は、随時変更する可能性があります。最新の結果概要はホームページに掲載しております。